

所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第142号 平成31年 1月 9日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 Tel 381-1058

(主な内容)

- ・「LGBTに関する研修会」実施報告
- ・「朝運動プログラム」普及出前授業実施報告

「LGBTに関する研修会」開催される

12月14日(金)、江別市民会館小ホールを会場に「LGBTに関する研修会」を開催しました。

各小中学校の校長、教頭、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、一般教諭をはじめ、心の教育相談員、家庭問題研究会、LGBT関係団体、市教委など計103名が参加しました。

講師は、北海道セクシャルマイノリティLGBT協会代表の日野由美氏で、LGBTの実態と現状、学校におけるLGBTへの合理的配慮等についてご講演されました。

アンケート結果では、「大いに参考になった」と「ある程度参考になった」を合わせると97%となり、大変内容のある研修会にすることができました。

ご参加いただいた各小中学校、心の教育相談員などの皆様に心より感謝申し上げます。

LGBTには性別違和など様々なケースがあり、それらを受け入れる社会状況の厳しさもあるが、学校としては、配慮できることできないことの話し合いを本人や保護者と十分に重ね、お互いに納得して対応する中で、その児童生徒が社会を生きていく上でのスキルも身につけさせていくことが大切と感じました。

参加者の感想やご意見もいくつかご紹介いたします。

- ・初めて当事者の方からお話を聴きました。現場でもまだそういうことを打ち明けられたことはありませんが、今日のお話を生かしていきたいと思います。
- ・知識として全員が知っておくべき内容と思う。子どもを傷つけたとしても、その子がそれを言わなければ教員は気付かない。そういう風に知らないうちに傷つけていることがたくさんあるのではないかと思う。
- ・男女という2つの単純な性の分け方では、人間の分類をすることに無理があることが分かりました。
- ・高校生の10%が性的悩みを抱え、その9割は誰にも相談したことがないというデータに驚きました。寄り添い、悩みを話してくれるような存在になりたいものだと思います。
- ・いわゆる性的マイノリティと言われている方がごく自然にカミングアウトでき、それを当然として受け入れることができる社会成熟が必要であると思いました。
- ・みんな違ってみんないい、ということが大切だと思いました。一人一人が大切にされる社会をつくるために、まずは学校からだな…と思います。
- ・学校ができる配慮はしていきたい。「折り合いをつける」これは本人も、学校も、周りも必要ですね。
- ・女性→男性は配慮できそうかと思いましたが、男性→女性の配慮が難しいと思いました。
- ・子どもや保護者と丁寧に面談を重ね、一つずつ対応策を合意の上、進めていく必要があると感じた。
- ・全てを受け入れるのではなく、学校としてできること、できないことの線引きを根拠を持って行うことが大切。



「朝運動プログラム」普及出前授業

「朝運動プログラム」普及出前授業は、北翔大学と文京台小学校が連携し取り組んできた体力向上プロジェクトを市内の小学校に広めることを目的にH25年度から始めました。今年度の江別第一小学校と江別太小学校の実施をもって1巡し、大麻小学校から2巡目に入りました。来年度から前期2校、後期3校それぞれ1回ずつ実施していくことになります。

文京台小学校では朝の時間帯に実施してきましたが、普及出前授業は1時間の体育の授業として実施しています。ですから、体育の授業改善のための一つのモデルとして観ていただくのも良いと考えています。大宮准教授の子どもたちをやる気にさせる言葉かけや指導のスピード感、様々な運動要素を取り入れた独創的な遊び、豊富な運動量など、どれをとっても大変参考になりますので、良い面をどんどん体育授業に取り入れることをお勧めいたします。

紙ボールを投げて新聞紙を破る遊び「花火」(江別太小2年)



ゴムや鬼の障害を越えゴールする遊び「宝あつめ」(第一小2年)

投げた紙ボールを袋でキャッチする遊び「フルーツキャッチ」



歌と手拍子に合わせて両足で跳び、輪に沿って前進する遊び「カンガルーの遠足」(第一小2年)

4種類の跳躍をシールを励みに何度も繰り返す遊び「跳人！めざせ人間離れの跳躍力」(大麻小2年)



新聞紙を丸めポロ袋に入れて結んだものをステージに投げ込む遊び「流れ星を作ろう！」(大麻小2年)

